



自然を語る会報告

1月20日 10時～12時

日比谷図書文化館 参加者 10名

担当；鈴木善次さん

今日は外来種問題を考えてみようということで、担当の鈴木さんが「アライグマがいて委員会 学習シート」をプリントしてきてくださった。これは大阪府環境会議の皆さんが、リナックス型環境共育プログラム（資料を公開し、メンバーや環境問題に関心を持つ人々が互いに学びあい認識を深めていくプログラム）開発プロジェクトの一つである。ここでは、アライグマをとりあげている。

シートでは外来種とは何か、アライグマについて知ろう、どのような経緯で日本に入ってきたか、またその影響は何か、どういう対策が取られているかなどの基礎資料が用意されており、グループで外来種問題を考えるようになっている。

もう一つ、ネットから「アライグマ問題を考える」という動物病院の院長さんのコラムが紹介された。アニメ「ラスカル」人気から日本でもアライグマがペットとしてもはやされた時期があるが、成獣になると手に負えなくなり、捨ててしまう、それが繁殖し今は害獣となっている。人間の被害を減少するためにアライグマを殺すのはある程度やむを得ないかもしれないが、「害獣だから殺す」というのはあまりにも人間の身勝手ではないだろうか。本当は人間が加害者、アライグマは被害者なのだ。害獣として根絶を目指した行為の行きつく先は膨大な費用、それでも根絶できない敗北感、そしてもっとも重要なのが「命の大切さ」という言葉の信ぴょう性が揺らぐことだとこのコラムでは指摘している。

命の大切さを一方で訴えながら、害獣という人間の見方だけでアライグマを殺すことの矛盾について、気づかされる文章だった。ほかにもウシガエル、ハクビシンなどについてもどうなのかと疑問がいろいろ出た。

簡単に結論が出る問題ではないが、これからも考え続けていきます。

（文責 小川）